



アンサンブル



2023.11.28
No.7

「聴く力」を育てる



本校は「粘り強く自分の考えを生み出そうとする児童」の育成をめざし、研究に取り組んでいます。特に、いろいろな人から新たな知識を取り入れるために「聴く力」を育てようと、職員も日々努力を重ねています。

学校で勉強することで、自分と違う価値観の大人や友達と出会ったり、教えてもらったリして、「そうか。分かった!」「なるほど!」と思えることが大人以上に多いのが子どもです。子どもは教師や友達から教えてもらうことの方が、大人に比べると圧倒的に多く、話を「聴く」ことがとても大切であると思っています。

本校の子どもたちは、話を「聞く」ことはできています。聞こえてはいるけれども、理解しようとしているかとなると、少し弱いのではないかと感じていました。「聴く」とは、相手の言いたいことを理解しようということです。話している人の気持ちを考え、共感したり、ちょっと違うぞと思ったりしながら、「相手の言っていることをもっとよく知りたいな」と思うことです。例えば、テレビを見ている時に、自分にあまり必要のない情報は、「聞いて」います。しかし、自分が興味をもったり、関心があったりすることになると、その情報は「聴いて」いることになります。「聴いた」ことで理解も深まるのです。人の話をただ「聞き流す」ことは、とてももったいないことです。自分と価値観が違ういろいろな人の話を「聴く」ことによって、新しい発見をしたり、違う考えから、さらに調べてみようと思ったりすることができます。

教室には、『ききかたあいうえお』『耳+目心』(右写真参照)が掲示してあり、常に子どもたちの目に触れるところにあります。また、朝会等には、毎週週番の先生や麦島先生から、話の「聴き方」はどうだったのかについてお話があります。

学力向上の基本は「聴く」ことです。新しい時代を生き抜く子どもたちにとって、「聴いて」「発信する」力が求められています。相手の話を「聴く」ことで、しっかり受け止め、相手の話に対して、賛成なり反対なり自分の意見を発信する。それを相手に「聴いてもらう」。こうやって「粘り強く自分の考えを生み出そうとする児童」を育てていきたいと考えています。

